永　福

令和５年４月２８日
杉並区立永福小学校

一つ一つをこつこつと

副校長　　坂田　則章

令和５年度が始まって約３週間、子供たちも大人もようやく新しい学年・友達・先生に慣れてきたようです。慣れてきた今だからこそ、大事にしてほしいことがあります。それは私自身こつこつと取り組んでいることでもあります。【挨拶】です。朝の登校時の「おはようございます。」はあたりまえに、廊下や階段、校内の様々な場所で子供たちと出会った際を大事にしています。午前中であれば「おはようございます。」日中であれば「こんにちは。」ときにはフレンドリーに「どーもー。」なんてことも。できるだけ子供たちと一瞬の出会いで言葉を交わそうとしています。【挨拶】は、交わすとお互いにいい気分になれる魔法の言葉です。特別なことではなく、自然に**『いつでも・どこでも・だれとでも・だれからでも』**できるようになってほしいと願っています。「おはよう。」「こんにちは。」「こんばんは。」の【挨拶】は、相手の無事を喜ぶ言葉が語源とされています。『互いに相手を思う』そんな素敵な学校でいたいものです。

そして、そんな挨拶を続けていると、子供たちの笑顔も増えてきたようにも感じています。挨拶をスタートに笑顔があふれる永福小を実現していきたいと思います。御家庭でも朝や帰宅時、食事や就寝の際等、家族間での挨拶場面がたくさんあります。お互いを思う挨拶の習慣化をよろしくお願いします。

また、このところ気になっていることがあります。昇降口の靴箱です。永福小ではかかとをそろえて整頓する約束になっています。しかし、靴箱を見ると「・・・・・。」と、気になってしまうのです。ひどく乱れているかというとそういうわけではありませんが、「こんなところにも意識をもてるといいなぁ。」と思うのです。昇降口で上履きに履き替えるとき、靴をそろえられると、ほんの一瞬の心の余裕、安定がそこにはあります。気が急いていてもその一瞬を大切にすることで何か物事が一つ落ち着いて進むと思うのです。右の詩は「脚下照顧」（足元を見て自己を振り返る）をわかりやすく伝える詩として全国の小学校でも多く扱われています。はきものをそろえることで心がそろうと言っています。

はきものをそろえる
はきものをそろえると心もそろう
心がそろうと、はきものもそろう
ぬぐときにそろえておくと
はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと、
世界中の人のこころもそろうでしょう

挨拶もはきものをそろえることも、特別なことではなくあたりまえとなるよう日々のこつこつを実行できるようになってほしいと思います。毎日の積み重ねが大きな力へとつながることを実感してほしいです。